

農作物技術情報 第7号 水稻

発行日 令和8年9月24日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

- ◆ 刈遅れは着色粒や胴割粒、白未熟粒の混入率を高めるので、速やかに刈取りを終えましょう。
- ◆ 倒伏したほ場では、コンバイン等の作業速度を遅くし、刈分けにより品質確保に努めましょう。
- ◆ 胴割粒の発生防止のために、丁寧な乾燥を心掛けましょう。
- ◆ わらの分解を促進するため、秋の早い時期に稲わらのすき込みを行いましょう。
- ◆ 日没が早まる時期なので、無理をせず安全第一の農作業を心掛けましょう。

1 県内の刈取り進捗状況

- (1) 9月17日現在、県全体の水田の7%で刈取りが終了しており、地帯別では、北上川上流8%、北上川下流7%、東部4%、北部4%となっています。
- (2) 刈取り始期（10%）は、平年より4日早い9月18日頃に到達したとみられます。

表1 県内水稻の刈取り状況（9月17日現在、各農業改良普及センター調査）

	進捗率(%)				本年（月/日）			平年（月/日）			平年差（日）
	本年	R7	R6	R5	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期
北上川上流	8	23	29	23	[9/18]			9/22	10/3	10/14	[-4]
北上川下流	7	19	27	21	[9/18]			9/22	10/2	10/12	[-4]
東 部	4	23	42	27	[9/20]			9/21	9/30	10/12	[-1]
北 部	4	27	22	19	[9/20]			9/24	10/4	10/16	[-4]
県 全 体	7	21	28	22	[9/18]			9/22	10/2	10/13	[-4]

- 1) 県全体…地帯別の水稻作付面積比による加重平均。
- 2) 刈取り時期…始期：10%、盛期：50%、終期：90% の水田で終了した日。
始期〔括弧書き〕は、平成28年～令和7年の10ヵ年の進捗率を基に推定した値。
- 3) 平 年…平成28年～令和7年の10ヵ年の平均値。

2 品質確保に向けた収穫対策

- (1) 刈遅れは着色粒や胴割粒、白未熟粒の混入率を高めるので、速やかな刈取りに努めます。
- (2) 倒伏した稲では、青未熟粒や穂発芽粒が混入することがあります。このため、倒伏していない正常な稲と区分して収穫します。また、水口付近など、周りと比べて生育等が著しく異なる部分も刈分けし、未熟粒や被害粒の混入を防ぎ、玄米品質の均質化に努めます。
- (3) 倒伏した稲を収穫する場合は、コンバイン等の作業速度を遅くし、丁寧な刈取りを行います。
- (4) 例年10月は台風が発生が多い時期です。台風接近前は農作業安全に留意しつつ、可能な限り刈取りを進めるとともに、通過後は速やかに作業開始できるよう、排水対策を徹底します。

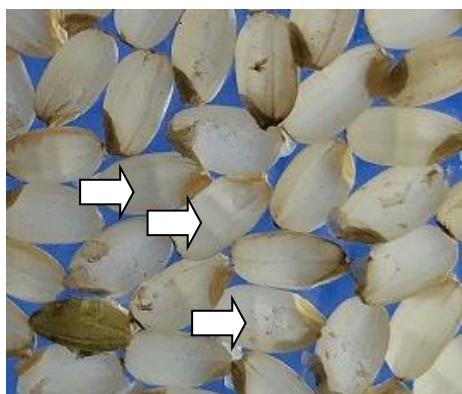


図1 胴割粒（矢印）



図2 乳白粒（矢印）

3 乾燥・調製の留意点

胴割粒の発生を防ぎ、玄米品質を確保するため、仕上げ水分15.0%以下を徹底し、丁寧な乾燥・調製を心掛けます。

具体的な留意点については、令和8年8月27日発行の「[農作物技術情報第6号 水稻](#)」を参照ください。

4 秋耕起（稲わらの腐熟促進）

- (1) 稲わらの秋すき込みは、春すき込みに比べわらの分解が進むため、入水後の「わき（硫化水素や温室効果ガスであるメタン）」の発生や窒素飢餓による水稻の生育抑制を軽減できます。わらの分解は、地温 15℃以上で促進されますので、秋の早い時期にすき込みできるよう、適期刈取りに努めます。
- (2) 稲わらの腐熟促進を図るための耕起は、5～8 cm 程度の浅耕とします。
- (3) 切りわら散布後、腐熟促進肥料（石灰窒素の場合、10a あたり現物 15～20kg）または家畜ふん堆肥（窒素換算で 5 kg/10a、発酵豚ふんや鶏ふんなど C/N 比が低いものが望ましい）を施用してすき込むことで、わらの分解が一層促進されます。
- (4) 湿田では、わらはたい肥化して施用することが望ましいですが、困難な場合は稲わら等のすき込み後、排水溝の設置などにより地表水の排除に努めます。

5 農作業安全

日没が早まる時期です。夕方に事故の発生が多いので、計画的かつ慎重な作業を心がけます。

- ・ ほ場での移動、運搬の際の転倒事故や車の追突事故に注意します。
- ・ コンバインにわら等が詰まった際は、必ずエンジンを止めてから作業を行います。
- ・ 夜光反射材や低速車マークを取り付け、路上走行中の追突事故を防止します。

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は10月29日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**「これくらい…」 少しの油断が事故
のもと 初心忘れず安全作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。